

平成28年度 佐賀市立北山東部小学校 学校評価結果

1 学校教育目標
<p>「郷土を愛し、心豊かで、心身共にたくましく、生き生きと学ぶ東部っ子の育成」</p> <p>① 郷土を愛する子ども：豊かな自然・温かい地域や人・確かな伝統を大切に子ども</p> <p>② 心豊かな子ども：豊かな感性を持ち、自他のよさを知り、大切にするとともに、思いやりの心を持って人に接する子ども</p> <p>③ 心身共にたくましい子ども：武道の精神を学び、礼節を重んじ、自分に負けない子ども</p> <p>④ 生き生きと学ぶ子ども：めあてを持って主体的に学習し、自分の考えを進んで発表する子ども</p>
2 学校経営ビジョン
<p>① 教師の授業力を充実させ、全職員による児童理解に努めながら、個に応じた指導、全職員の共通理解・共通実践により、基礎学力の向上を図る。</p> <p>② 少人数・複式学級のよさを再認識すると共に、少人数であることの弱点を補強するため、他校（近隣の保・小・中・中規模校）との交流活動・合同学習を進める。</p> <p>③ 全校児童が仲良く一つになるような学習や季節を感じる遊びの場を設定することで、児童一人一人に学校や地域での楽しさを味わわせ、郷土への愛着を培う。</p> <p>④ 全校剣道・生徒指導・教育相談等を通して児童理解に努めると共に、保護者・地域の声 を指導に生かし、児童によりよい生活習慣を身につけさせる。</p>

<p>※評価 A(十分達成している) B(おおむね達成している) C(やや不十分である) D(不十分である)</p>
--

3 本年度の重点目標	4 前年度の成果と課題
<p>学校教育目標「郷土を愛し、豊かでたくましい心と体で、いきいきと学ぶ東部っ子の育成」から、小規模小集団の中でも、ふるさとを愛し、社会性を身につけたたくましい児童の育成を図っていく。そのために以下のような重点項目に力を入れて取り組む。</p> <p>(1) きめ細やかな情報提供と密な交換、保護者・地域等との連携や交流の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保護者や地域との連携・協働により、さらに子どもを中心に据えた学校づくりをする。 <p>(2) 子どもたちの望ましい学習習慣や生活の向上</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ユニバーサルデザイン化した学習環境づくりと、だれもが「わかる・できる」授業づくりの実現をめざす。 ・生活のやくそく『4つのあ』のあいさつ・あんぜん・ありがとう・あとかたづけの指導の徹底を更に推進する。 <p>(3) 山村留学制度の充実と推進、協働による連携</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保護者・地域・学校が連携し、生活や学習、行事・体験活動等を通して、地元っ子と留学生の健全育成を図る。 <p>(4) 校内研究の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・主体的・自立的に学び合う力を育む「ガイド学習」（ずらし・わたりの授業）や一人学びによる 自主学習など北山東部小ならではの複式学年別指導法の確立をめざす。 <p>(5) ICTを活用した教育の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学習にICTを活用することで、学習意欲を高め、一人学びを活性化することで、自立した学 習を促す。また、デジタル教科書、デジタルコンテンツを活用し、「わかる・できる」授業づくりの実現をめざす。 <p>(6) ふるさと体験活動の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> ・富士町・佐賀市の豊かな自然環境や社会環境を生かした行事や教育活動、農業や地域地場産業の体験を通して、ふるさとのよさにふれさせるとともにキャリア教育を推進する。また、学校と地域が一体となって取り組む地域行事や山村留学関係行事を通して市民性を育む。 <p>(7) 武道（剣道）教育の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> ・規律を重んじ、礼儀正しく人と接する心を育て、日常生活に活かす。 ・これまでの伝統を継承し、剣道の3つ誓い「・礼儀正しくします。・真剣にします。・自分に負けません。」のもと、武道に慣れ親しむ。 	<p>保護者との連携において、連絡不足や共通理解の不足が見られた。小さな学校の特性を生かした学校づくり、子どもを中心に据えた学校づくり、困る子どもが困らない学習・生活環境づくり、さらにきめ細かな情報提供や保護者と担任等との情報の共有化・連携に取り組んでいく。総括すると下記のような成果と課題があげられる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・児童一人一人の日々の行動や言動、様子について、毎月、生徒指導・教育相談連絡会を実施して共通理解を図ってきた。今後はそれらを日常的に記録し、児童の情報を共有する仕組みを構築していく必要がある。 ・全教員が公開授業・授業研究会を行うことにより、児童に確かな学力をつけるための学年別複式指導の研修を行ってきた。今後、ごく少人数であっても多様な意見に触れることができるような手立てを考える。 ・全学級で統一した学習過程「やまばと」を教室に常掲することで、教師も児童も意識するようになった。その中で、児童の主体的な学習と言語活動を意識した学習段階を位置づけた。 ・授業・全校スピーチ・交流学習等々の場で、「いつでも どこでも だれとでも」を合い言葉に、常に自己表現を意識させる活動を行うことができ、力をつけた。今後もコミュニケーション能力の向上を図っていく。 ・学年末に行う「井原山チャレンジ」・個別の指導等を通して基礎的・基本的な学力の定着については着実な成果が見られた。今後、活用力・応用力といった面で力を伸ばすための取組みも必要である。 ・全児童100冊以上の読書・ICTを活用した学習の推進など、学力向上のベースになる取り組みが学習状況調査の結果などに現れている。 ・生活点検カードの取組みにより保護者との連携を図った。基本的な生活習慣の確立についての共通理解を得ることができている。 ・全校児童が意欲的に剣道に取り組み、心身の成長を図ることができた。 ・教育相談について計画的に外部から講師を招き研修を行った。児童についての共通認識を持つことができ、職員による一致した指導を行うこともできたが、個々の場面の指導について職員間の共通理解を図る。 ・地域連携は、今年度も生活科・総合的な学習の時間を利用して児童が地域へ出かけて地域の良さを味わう活動を多く設定することができた。更に職員が積極的に地域へ働きかけるような取組について工夫していく。 ・職員および児童の危機意識については必ずしも高いとは言えない。様々な場面を想定した実効性のある訓練の実施や研修だけでなく、日常の安全点検、常に危機意識を持った行動を心がけていく必要がある。

3 目標・評価

① あらゆる場面で自信を持って自己表現できる確かな学力を身につけた児童を育てる。

領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	担当	具体的方策	評価及びその理由	成果と課題	具体的な改善策・向上策	
学校運営	○教員の資質向上	授業力の向上	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の授業を振り返り、指導技能の向上に努める。 ・校内研究を通して学習過程の在り方を明確にする。 ・全員研究授業を1回以上行う。 	<p>教頭 研究主任 (中野)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・校内研究で全員授業を行い、事後の研究会の中で検証しあい、授業力を高める。 ・講師を招聘し、研究会を充実したものにする。 ・各種研修会への参加を奨励する。 ・ユニバーサルデザインに基づいた全学級共通の落ち着いた教室環境をデザインする。 	<p>B</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・全職員で生活や学習のきまりの再確認と共有化を図り、統一した教室環境づくりができなど、困っている子が困らない学校にするためのユニバーサルデザイン教育が進んだ。 	<ul style="list-style-type: none"> ・教員の指導力の向上を図るために、外部講師を招いたり、研修会の方法や内容を検討し改善していく必要がある。また、教員が進んで県教委等主催の各種研修会に参加してスキルアップを図る。 	
			<ul style="list-style-type: none"> ・国語・算数・理科・社会などの学習においては、可能な限り複式解消を図った授業を行う。 ・「井原山チャレンジ」で全員90点以上をめざす。 						
教育活動	●学力の向上	個に応じたきめ細かな指導の充実	<ul style="list-style-type: none"> ・国語・算数・理科・社会などの学習においては、可能な限り複式解消を図った授業を行う。 ・「井原山チャレンジ」で全員90点以上をめざす。 	<p>学力向上 コーディネーター (吉浦・中野)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・教務主任等の級外が学習支援に入り、学年別指導を実施する。 ・すくすくタイムを有効に活用し、繰り返し学習を行うことで、学習内容の定着を図る。 ・毎日の家庭学習についても個に応じた課題を出し、日常的に丁寧な対応を行う。加えて、自主学習を奨励し、手立てを講じる。 ・県の学習状況調査やCRT学力検査の結果の考察を行い、指導に生かす。 ・自分の考えを書いたり説明したりする、ノート指導の手立てを工夫する。 	<p>A</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・県の学習状況調査やCRT学力検査の結果の考察を行い、本校児童に必要な手立てとして、調べたりまとめたりする活動を多く取り入れ、それにより考えを高めたり深めたりする子ども同士の学び合いの質を高めていくこと等を実践することができた。 ・すくすくタイムでは、その都度クラスにとって必要な教材を準備することで、より効果を上げることができた。 ・自分の考え等をノートに書く指導はできたが、学校全体を通してより効果的なノート指導を行うまでには至っていない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・(予定)井原山チャレンジ(完全習得ドリル学習)を国語と算数で行なった。児童は、一生懸命に取り組み1回で或いは、再テストをして全員が合格した。 ・(予定)CRTテストの結果は、個人差があるものの全学年が良好であった。 ・全国・県学力調査では、殆どの項目で「十分達成」の結果を得ることができた。 ・家庭での学習が個人差はあるが、昨年度より徹底することができた。まだ完璧とは言えない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・児童が意欲を持って学習に取り組み、保護者も関心を持つことができるような課題の出し方や評価方法等の工夫を行う。 ・来年度も複式学級の中で、児童自身が「主体的に学ぶ」学習指導や学びの手順がわかるような学習の定着について、研修を深めていく必要がある。 ・1年生から6年生まで、系統立てたノート指導について徹底させる。
			<ul style="list-style-type: none"> ・児童の100冊以上(おすすめの本を含む)読書量を目指す。児童の達成率100%。 ・読書のジャンルを広げ、質の向上をめざす 						

特定課題	●小学校低学年の学習環境の改善充実	基本的な生活習慣・学習習慣の育成	・家庭学習の習慣化のために、家庭と連携して、生活・音読点検を徹底する。	低学年担任 (藤崎)	・職員・児童に周知徹底し、授業・帰りの会等で全職員で指導し、あらゆる機会に[「まっすぐ拳手・はつきり」「はい」と返事・ずっと起立]の3点についての評価を行う。 ・宿題点検カードを配布し、毎日点検し、表現力の向上を図る。	B	・朝の会・帰りの会や普段の授業で3点について指導してきた。児童は意識して取り組んでいる。 ・音読・計算カードを毎日点検した。練習の成果を見るために1・2年生がお互いに音読や計算を披露する場を設定し、がんばりを認め合うようにした。表現力の向上にまでは至っていない。	・相手の話を注意深く集中して聞くことができないこともあった。聞くことの指導の工夫が必要だと考える。	・毎日、児童自ら点検しながら、意識づけを図る必要がある。
	○幼保小中連携	中山間地域の近隣の保小中との連携の推進	・近隣の保育園・小学校と每学期交流授業を行う。 ・6年生の中学校進学に対する不安解消のための活動を実施する。	低学年担任 (藤崎)	・北部保育園と行事を中心に交流活動を年3回以上行う。 ・6年生が進学する中学校を訪問し、「こんにちは先輩」を行うなど、不安解消に努める。 ・鬼火小屋作りや鬼火焚きなどの地域の伝統的な行事に近隣の保育園児・小学生を招待し交流を深める。	B	・連携会議や保育参観や打ち合わせなど幼保小連携を密にすることができた。 ・北山校・三瀬校との行事に数回参加して、交流も深めることができた。 ・鬼火小屋作りや鬼火焚きなどの地域の伝統的な行事に近隣の保育園児・小学生を招待し交流を深めることができた。	・北部保育園との連絡協議会や保育参観をもつことができた。三瀬保育園とも新入学児の引き継ぎや保育参観等など、交流連携が深まった。 ・鬼火小屋遊びに向けて、意欲的に取り組み、当日も楽しく過ごすことができた。上級生としての意欲が高まった。 ・三瀬保育園との交流学習等も検討していきたい。	・保育体験や教諭間の情報交換等の時間確保のための調整が必要である。

② 規律正しい生活・全校剣道を通して心身ともに充実した児童を育てる。

領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	担当	具体的方策	評価及びその理由	成果と課題	具体的な改善策・向上策	
教育活動	●健康・体づくり	全校剣道の充実	・剣道を通して自分の体力づくりに関心をもたせ、進んで運動をする態度を育てる。 ・剣道を通して礼儀正しい態度を身に付けさせる。	剣道担当 (大野、藤崎)	・剣道ノートを利用して、自分の目標や稽古について振り返らせ、運動に対する意欲を高める。 ・生活の場で礼儀正しい態度で過ごせたことを賞賛する。	B	・剣道ノートを活用して、各児童の目標を意識させながら指導することができた。 ・生活の場で活かすことへの手立てが不十分であった。	・剣道に取り組むことで、あいさつ礼儀・基本的な生活習慣の徹底を図ることができた。 ・武道としての剣道の厳しさを伝えることの難しさを感じた。	
		望ましい食習慣と食の自己管理能力の育成	・朝食の内容・重要性について、学年に応じて児童に考えさせ、実践させる。 ・学校給食を活用し、健全な食生活と食事マナーの習得に取り組む。給食を好き嫌いせずに、食べられる量を考えながら食べる。食事中・食後のマナーの定着を図る。	食育担当 (内村)	・学級活動や給食週間の取組みにおいて、朝食等家庭での食生活を調査し、個に応じた適切な指導を行う。 ・全職員による給食指導を行う。高学年が家庭科で学習した会食の仕方等、給食時間を利用して全児童に広める。 ・偏食指導を行なうとともに、自分の食べる量を考え食事をする。	B	・給食時には、全職員で指導を行ないマナーを守った食の指導を行なった。 ・給食週間では、給食に関する集会を行った。 ・学校栄養教諭による「旬の野菜の大切さ」の授業を行った。(低・中学年)	・朝食喫食率は100%で、給食の残菜ゼロをめざし自分の食べられる量を考えながら食事をする事ができている。 ・しかし朝食については、内容に偏りがある部分もあるので家庭と協力しながら、指導していく必要があると考える。 ・給食マナーについて全職員で指導を行うとともに、栄養教諭からマナーの指導も行った。 ・作物の栽培づくりを通して、食の大切さを学んだ。 ・給食を好き嫌いをせずに、自分に合った適量を食べることができた。	
	●心の教育	道徳教育の推進	・年1回以上、全学級でふれあい道徳の授業公開を行う。	道徳担当 (吉浦)	・「ふれあい道徳」では、生命尊重・家族愛を中心とした価値項目で授業を実践し、よりよい生き方を保護者と一緒に考えさせる。	A	・ふれあい道徳を計画していることを事前に保護者に知らせ、全クラスで全保護者とともに実践することができた。 ・ふれあい道徳で学んだことを、家庭生活の中で生かしていくことができるよう呼びかけはしているが、実施を確認するまでには至っていない。	・道徳の中で学んだ価値を、学級指導等の時間を使って実践することにより、自己有用感のある学校経営や学級経営を行うことができた。 ・山村留学のため里親制度がある本校では、学校生活だけでなく、家庭での生活の中で生きるような道徳指導が必要である。	・教科化を見据え、「ふれあい道徳」の授業前に保護者に学習内容を更に詳しく連絡する。 ・道徳科の評価結果を児童や保護者にわかりやすく知らせる。
	●いじめの問題への対応	人権教育の充実	・児童一人ひとりが大切にされる学校・学級をめざす。 ・「いじめ0」の継続をめざす。 ・全職員で取り組み、児童の人権意識を高める。	人権・同和教育担当 (吉浦)	・月に1回人権教室を実施する。(学期に1回、校長・教頭・養護教諭も行う。) ・毎学期、全校での人権学習・集会を実施する。 ・保健の「いのちの教育」とタイアップした授業を実施する。 ・12月に全校人権集会を実施する。 ・月1回の「心のアンケート」を活用し、各児童の実態に応じたより具体的な指導を実践する。	B	・毎月の人権教室(輪番で全職員行う)や7月の全校平和集会、「いのちの教育」とタイアップした授業の実践することができた。 ・「心のアンケート」により児童の様子を把握したり、職員間で情報交換をしたりして支援や指導を行うことができた。 ・相手を大切にしようとする言葉遣いを十分に身につけさせることができなかった。	・職員室の会話の中で日常的に、児童の様子について話題にし、共通理解を深めることができた。 ・保護者や地域の方との会合の中でも学校の取り組みについて説明し、理解を求めた。 ・教育相談の専門的な諸機関との連携を図り、計画的に実施することにより、児童理解を深めることができた。 ・児童一人一人の欲することを深く的確に把握し、効果的な指導を行うところまでは至っていない。	・学習中だけでなく生活の中でも「さん」づけで呼ぶ指導やいねいな言葉で話す指導を徹底することにより、相手を大切にしようとする気持ち育てる。 ・児童が主体となって取り組む「人権集会」を行うことにより、人権について深く考えさせる機会とする。
○生徒指導	きめ細かな個別指導の充実	・生活の約束『4つのあ』活動の定着を図る。『4つのあ』を進んでできる児童が100%を達成する。 ・基本的な行動様式の定着を図り、気になる子どもに対して全職員で支援する。 ・安全教育の指導の徹底を図る。	生徒指導担当 (中野)	・「あいさつ・あんぜん・ありがとう・あとかたづけ」の活動ができた児童をスターシールなどを活用してほめる。全校の場でも紹介する。 ・生徒指導・教育相談連絡会を毎月開き、気になる子どもに対して、全職員共通理解の上で、きめ細かに対応する。 ・毎日の全校帰りの会で、交通安全や防犯意識を高める指導を行う。	B	・毎月の生徒指導・教育相談連絡会で共通理解を図り、組織的な体制で児童一人一人を見つめて取り組むことができた。 ・一年間を通しての生活目標を設定し、学期ごとに自己評価させ点検することで、意識づけすることができた。	・職員室の会話の中で日常的に、児童一人一人の様子について話題にし、共通理解を深めることができた。 ・保護者や地域の方との会合の中でも学校の取り組みについて説明し、理解を求めた。 ・教育相談の専門的な諸機関との連携を図り、計画的に実施することにより、児童理解を深めることができた。 ・スターシールやほかほかキラリの本を活用することで、自己肯定感を育てることができた。	・職員間のみならず、保護者との連携を推進し、児童理解のいっそうの推進と共通実践に努めていく必要がある。	

③ 地域から信頼され、地域と連携した豊かな体験活動が充実した学校づくりを行う。

領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	担当	具体的方策	評価及びその理由	成果と課題	具体的な改善策・向上策
学校運営	○学校経営方針	本年度の重点目標の周知	・教職員・児童・保護者の周知率を9割以上とする。	校長	・職員会議、全校集会等で説明する。 ・学校便り、山村留学総会・育友会総会などで周知し、具体的取組を説明する。 ・地域参加の各行事において周知を図る。	B ・職員に対しては職員会議等、機会あるたびに説明を行った。保護者に対しては、毎月の保護者会や行事等で説明を行った。保護者アンケートでは、周知率82.5%の結果から目標の90%には届かなかったものの、概ね周知できているといえる。	・毎月の保護者会で、児童の様子や学校行事についての打ち合わせなど、学校と保護者との話し合いを行ったことで、保護者の理解を得ながら教育活動を推進することができている。	・地域の方の行事等への参加に課題がある。学校便りや案内文書を配布し、周知・理解を求めていく。移動交通手段のないお年寄りの参加を促す方を検討していく必要がある。
	○開かれた学校作り	開かれた学校作りの推進	・学級だより、学校だより、学校ホームページ等による情報発信を拡大する。 ・保護者だけでなく、地域の方も含めた学校行事を充実させる。	校長 教頭	・学校便り、毎月発行し、保護者・山村留學生の実親・地域全戸に配布する。 ・実親には、学級通信や学級便り・各種案内等を毎週郵送する。その際、子どもの様子が分かる写真等も一緒に送る。 ・学校の活動を学校だよりをはじめ、市報・新聞等のメディアを活用しアピールし、地域の方の学校行事への参加を促す。 ・学校ホームページを日々更新し、学校の教育活動を積極的に公開する。	B ・学校便りは、自治会長に依頼するなど全て校区内全戸に配達することができた。また、職員が直接配布した。 ・総合的な学習では、地域や山村留学を題材とした取組ができた。 ・学校ホームページは校長が日々更新を行って、学校の教育活動をきめ細かに公開・発信することができた。	・学校便りは地域の全世帯へ、学級便りは保護者や実親・里親に定期的に配布・配送し、学校や子どもの様子を知らせることができた。 ・学校だよりや行事の案内文書は、必ず、地域全戸に配布して参加を促した。しかし、地域の方の学校行事等への参加は多くはなかった。 ・学校ホームページは、ほぼ毎日更新し、保護者配布文書、山村留学募集関連文書、日々の教育活動の写真等、きめ細やかな情報提供を行うことができた。	・児童のいない地区や新入学児童予定宅へのアピールを更に工夫していく必要がある。また、地域の方が気軽に学校へ来て授業を参観したり、行事に参加したりする雰囲気醸成を更に努める。
特定課題	○山村留学の継続・発展	山村留学の継続・発展	・保護者・地域と協力して山村留学の継続・発展ができる学校をめざす。	山村留学 担当 (教頭・吉浦)	・山村留学実行委員会と協力して、福岡市役所・佐賀市役所・佐賀市教育委員会・佐賀県内教育事務所・佐賀県公立小学校に山村留学パンフレット等を配布してアピールする。 ・地域に根ざした学校として、様々な行事を保護者・育友会・山村留学会が一体になって実施する。 ・学校ホームページにおいて山村留学の効果や自然に恵まれた学校の教育活動を積極的にPRする。	A ・年度当初に年間計画で計画していたことは、大きな問題等はなく、実施することができた。 ・短期留学・長期留学募集時の福岡市役所でのプレゼンでは、北山東部小学校の特色や良さを児童の手でアピールできた。 ・様々な行事を保護者・育友会・山村留学会が一体になって実施することにより、児童に対しても地域を愛する心を育むことができた。 ・校長による学校ホームページの毎日の更新により、山村留学の効果や自然に恵まれた学校の教育活動を積極的にPRすることができた。 ・今年度は6名の長期留學生を受け入れている。里親、実親、実行委員会、地域と連携を図りながら、これまで問題なく充実した学校生活を送らせることができた。	・ホームページへの細やかな情報発信により、新年度の留學生の応募が6件あった。里親決め等苦慮する所もあるが、次年度の山村留學生を確保することができそうである。 ・行事の内容が伝統的で固定化したもの、地域の人の協力なしではできないもの等が多い。「鬼火焚き」準備等、参加者の減少で里親、保護者、教職員の負担が増えている。 ・山村留学制度に関する様々な行事は、職員や地域に対しても、北山東部小の良さを改めて実感できる取り組みとなっている。 ・職員が少ないことから、現在ぎりぎりの運営が続いている。意欲はあるが、体調を崩す職員も見られる。	・里親が減少する中、継続していくことの難しさを抱えているが、みんなで協力していくことを確認できた。 ・地域の方の参加や協力が得られるように地道に広報活動を行う。 ・必要な行事は残し、そうでないものはもう1度運営方法を見直すなど、職員が意欲を保ちつつ無理をしないスタイルを考えていく必要がある。

本年度の重点目標に含まれない共通評価項目

領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	担当	具体的方策	評価及びその理由	成果と課題	具体的な改善策・向上策
学校運営	○教員の資質向上	教職員の服務規律の保持に対する意識向上	教職員の服務規律の保持に対する意識を向上する。	教頭	・職員会議や職員連絡会で毎回服務規律について話題を提示し、職員の意識を高める。 ・国・県・市からの通知文は、全員に配布し、必ず管理職より補足説明をするか伝達・指導する。 ・日常的に事案・事件、事故の情報提供をする。	B ・職員会議・連絡会時に通知文等での事例等の読み合わせ等、服務規律の保持関係について話すことができた。 ・通知文については回覧し、適宜、印刷・配布して具体的に指導することができた。	・常日頃、職員会議や職員連絡会等で、服務規律保持を話題に取り上げて、注意喚起をすることができた。 ・通知文や新聞記事等から関連記事について情報を提供し、職員の意識を高めることができた。	・服務規律保持については、あらゆる機会を活用して研修や指導を行う。また、外部の専門家を招いての研修会も実施する。そして、教職員のモラルやコンプライアンスを高める。
	○危機管理	職員の危機管理の意識向上と危機管理体制の整備の充実	危機管理マニュアルをもとに不審者侵入を始めとする避難訓練で全員が自分の役割を遂行する。	教頭 中野	・危機管理マニュアルを時代の要請に応じて常に見直し、実効性のあるものにする。 ・年3回以上の避難訓練(不審者侵入・地震・火災)を行う。 その際、事案発生場所や時間帯を工夫するなどして、実効性のあるものとする。	B ・危機管理マニュアルの一部改訂した。 ・不審者進入等の避難訓練はスケジュールどおりに行ったが、内容に不備な点もあった。 ・教職員は、児童の安全を守る「安全点検」を月に1回行っているが、十分とは言えない面がある。また、常日頃の点検(目視等)への意識が高める必要がある。	・校内の危機管理マニュアルを実効性のあるものにするため、全職員で時間をかけて改定を行う必要がある。 ・不審者進入避難訓練等、警察署員や消防署員を講師に招いてスケジュールどおり実施することはできた。 ・本年度、北山東部小学校では、事件や事故の発生はないが、教職員自身や児童の危機意識を更に高める必要がある。	・職員および児童の危機意識については十分とは言えない。外部の指導者を招聘し、様々な場面を想定した訓練や研修を行う。また、訓練実施に向けての教職員の話し合いや打ち合わせを十分行う。(役割等) ・全職員で話し合っ、危機管理マニュアルの改訂を行う。 ・常日頃の点検を行うように職員会議や職員連絡会等で話題に取り上げる。

4 本年度のまとめ・次年度の課題

<p>・本年度、学校運営や教育活動は概ね良好と言えるが課題もある。本年度の課題を改善し、成果を更にあげるためには、次年度当初に今年度の成果や課題を確認しながら、全職員で検討を行い、「平成29年度学校評価計画」を作成する。また、保護者や地域の意見や要望を取り入れるために「学校行事」ごとに必ず「行事アンケート」を実施する。その意見や要望を全職員で話し合い共有化したり、改善策を立てたりする。</p> <p>また、本年度に「B」と評価した項目については下記のような改善策(取組)を行う。</p> <p>①「教職員の資質向上」については、外部講師を招いての各種(服務等)の研修会を行う。また、職員が各種の研修会に参加して技量等スキルアップを図る。</p> <p>②「読書活動推進」については、色々な分類の本を児童が読むような手立てや工夫を考える。</p> <p>③「基本的な生活習慣・学習習慣の育成」については、毎日児童自らに点検させながら意識づけを行う。</p> <p>④「中山間地域近隣地域保小中との連携推進」については、保育体験や各学校教諭間の情報交換等の時間確保のため、調整を行う。</p> <p>⑤「全校剣道の充実」については、日々の剣道ノートを点検する。基本的な生活習慣育成のためにも武道教育をいっそう推進する。</p> <p>⑥「望ましい食習慣と食の自己管理能力の育成」については、給食時のマナー指導をこれからも力を入れて行う。また、朝食の大切さについて保健指導や栄養教諭の講話などを入れながら指導を行う。</p> <p>⑦「人権教育の充実」については、「人権集会」を児童が主体となって取り組むように集会の内容を考える。</p> <p>⑧「生徒指導：きめ細かな個別指導の充実」については、保護者との連携を図る。また、児童理解のいっそうの深化と共有化を行う。</p> <p>⑨「本年度の重点目標の周知」については、交流を図り周知率を高めるため、移動手段のないお年寄りの参加を促す方を検討する。</p> <p>⑩「開かれた学校づくりの推進」については、児童のいない地区へのアピールを更に工夫していく。また、地域の方が気軽に学校へ来て授業を参観したり、行事に参加したりする雰囲気作りを行う。</p> <p>⑪「教職員の服務規律の保持に対する意識向上」については、常日頃の研修や指導を行う。また、外部の専門家を招いての研修会も実施する。</p> <p>⑫「職員の危機管理の意識向上と危機管理体制の整備の充実」については、危機管理マニュアルの内容を検討し実効性のあるものに改訂する。必ず、専門家を招いての火災等の避難訓練等を行い、指導や助言を受ける。</p>
--